



# 廻田町に大規模保育所実現 幼保連携へ向けスタート

## しかし 未だ潜む幼保の壁

「認定こども園がなぜだめなのか説明がない」「幼稚園と保育所がそれぞれ行なってきた役割を無視している。現状の幼稚園・保育所のどこに問題があるのか」「新システムは親と子を引き離す政策だ」「教育的な観点が含まれていない」「株式会社への参入の問いつても株式会社は倒産してしまえば認可もなにも関係ないのではないか」「ワーク・ライフ・バランスに対応してしまえば認可もなにも関係ないのではないか」「ワーク・ライフ・バランスに対応してしまえば認可もなにも関係ないのではないか」「ワーク・ライフ・バランスに対応してしまえば認可もなにも関係ないのではないか」

発行に際しまして、平素より就学前教育に従事する近隣の拠点として、多方面にわたるご理解・ご支持を賜り、誠にありがとうございます。このたび、隣接地に保育部（現・預かり保育）を拡大する形で、幼保の総合施設を構築する運びとなりました。就学前教育を求め、多方向にわたるご理解・ご家庭にも保育を必要とする場面は多々あります。また、就労や子育てで支援を必要とするご家庭にも就学前教育を望む人達が数多く存在すると同時に、社会もそれを望んでいます。様々な環境の人達が各々に適した子育て・教育環境を求めている現状がある陰に、模索されつつも異なる制度下において分断され続けてきた幼保の世界。未だ混沌とした一体化議論の最中ではありますが、様々な観点から見据えつつ理想を求め、総施設整備費6億超、「東村山むさしの幼稚園」は、このたび保育と教育がともに手を差し伸べあう形で総合施設の構築へと歩み始めました。

むさしのの園長が書く 新聞 Vol.1

幼・保を取り巻く現場からの情報・業界誌。あくまで、個人的思想である紙面故、誤字、脱字、記述の誤り等、失礼ある乱文ではありますが、何卒ご容赦いただきたく存じます。

### 平成 24 年 4 月 12 日、永田町にて行われた

幼児教育議連総会。内閣府より子ども・子育て新システムについての説明がなされ、次いで、行政からの報告、全日私幼連からの意見聴取が行われました。

いやはや、未だ多くの問題が。しかし、なぜに、これらの問題が発生するのか。ここでも思います。「どうして、ニーズも役割も異なる幼と保の何もかもを、無理やり一つにしようとするのか。」と。

各々、明確な使命と役割を果たし続けてきた幼と保。社会にとって、どちらも必要であることは言うまでもありません。そして背景には、幼にも幼の枠を超えた保育のニーズが望まれており、また、保育にも、教育的要素が望まれているのも実情を見れば明らかです。主に黄色の蛍光ペンでマーキングをした議論の内容。そして、そのさらに背景にある、現場における数々の諸問題を考えつつ、「構築は可能ではないか?」。我が学園は、あらゆるノウハウを駆使し、柔軟に対応しうる可能性を追求し、新施設の構築に向かい始めました。(仮称)「東村山むさしの総合こども園」。そこにある教育部と保育部にて構成されようとしている「幼保連携施設」は、各々の役割を明確にしつつ、あくまで互いの理念を尊重し合った上での連携を目指しています。

既存幼稚園の持つ環境や施設設備、また、教育ノウハウなどソフト面に至っては、保育を必要とする子どもやご家庭に対して、有効活用できるものが多々あります。それは逆も可なり。人、モノ、互いに必要なものを共有し、合理化と効率化を目指すことは、環境向上のみならず保護者負担の軽減、あるいは、財政への負担減にもつながる努力項目かと捉えています。ただし、幼保の融合に関しては、既存の概念や常識を柔軟に見直さなければならない点も、おのずと出てくることでしょう。互いに使命と役割の異なる教育と保育の世界に互いの理念を取り入れるのですから。しかし、子ども達にとって、どちらも必須であり線引きすべきではない「教育」と「保育」。そして、それを実現したいとの願い。法制度対応など、課題は山積していますが、変わり行く法制度へ常に目を向けつつ学ぶとともに、訴えるべきことも多々。時に声を発しつつ実情とともに歩みつつ新たな形の総合施設構築への努力を惜しまぬ決意です。来年度は、いよいよ 40 周年。新たな貢献に対し、多大なるご理解とご協力、宜しくお願い致します。



市内認可保育園マップより



市内認可外保育施設等マップより

計画された場所は、東村山むさしの幼稚園の南側隣地、約 2,000 m<sup>2</sup>の空地。この地域は、左の地図をご覧ください。市内における保育施設の空洞化地帯。まだまだ人口流入も続くと思われるベッドタウンでもあります。全国様々な地域での就学前教育・保育施設の改革の実例を見てきたのですが、子育て環境の向上により地域の活性化も可能となるかもしれません。また、能力のある子育て経験者の無理のない形での就業復帰の促進、また、施設教職員関係者に対しても、就労と子育ての両立支援となり得ます。

制度への対応と併せ、現場で考える理想的な在り方をもとに、早い時期からの教育と保育の役割分担、預かり保育部の改革と充実を経て認定こども園化を実現するなど着々と計画を進めてきた当園。所轄からの市内私立幼稚園に対する 1~2 歳児受け入れの要望を機に、今回、市内の待機児対策、また、国が進める量と質を伴った総合施設の整備に向けて手を挙げるに至りました。市の政策や計画にも大きく左右される事業。有効かつ早急な計画として、官民手を取り合い、子どものため、ご家庭のため、地域のため、また、小1プロブレムの解消、小学校の学力レベル向上、強いてはそれに続く市内全域にわたる学校の質や学力向上に向け、長き視線での施設整備計画と市内の就学前教育・保育システムの構築に向け協力していきます。

この地で生まれ、この地へ戻り  
市内各所におきましては、多岐に渡る様々な事業に対し貴重な財源が投じられ、続々と整備事業が行われています。良いのか悪いのか? 東村山駅西口から、さらに西へ。廻田町や多摩湖町は、比較的スローペースな地域であると個人的には感じています。市内最西部 狭山公園に隣接した長閑なベッドタウン。今回この廻田の地に、東村山市および都や国の多様なご理解と援助のもと、整備事業を誘致でき、教育と子育てに関わる環境整備を行うに至ったこと、誠に感謝するとともに、これまでの苦勞も、気の引き締まる思いへと変換されつつある昨今であります。

おおよそ三十歳を目前に、この地に戻り、この仕事に従事し十数年。園長となり早五年目。多くの子どもたちに、よりよき教育・保育の場をとお願ひ職務に従事してきました。そして、内容の向上とともに、合理化・効率化された事業運営を目指すことは、「子育てするなら東村山」を実現し、人口の流入や、それに伴う地域活性化をはじめ、税収の増加など、多くの効果をもたらすと期待しています。また、施設に対しては、将来を見据え多岐に渡る可能性までもを見据えている点、変わりゆく社会の先々に対して財政資源の有効活用、未永い地域への貢献が実現できるのではないかと考えています。過去、様々な活動を通して、仕事とは何か? 事業とは何か? 生きることとは何かを学び続けています。そして、いち地域事業主として、まずは、「常に、自分に何が出来るのか」を追求しつつ、事業を通しての本当の地域貢献とは何か? 社会貢献とは何か? を考える昨今でもあります。

この地に生まれ、一時は離れ、再度この地に戻った今。廻田町のみならず、たくさんの園児たちが住む市内近隣の町においても、そこで活躍される事業主の方々と共に、「遊ぶ暇があれば勉強を!」と、自分に渴を。そして、まずは胸を張れる我が事業のより良き発展を目指し、自分が生まれた東村山の活性化と地域力の向上を願い、努力し続けたいと思っております。

認定こども園とは  
幼稚園や保育所等が、教育と保育の両方の機能を提供するとともに、子育て支援事業を行う施設のことです。この制度は、「就業形態が多様化する中で、保護者の就労の有無に関わらない施設の利用」、また、「少子化の進行により子どもやきょうだいの数が減少する中で、子どもの健やかな成長にとって大切な集団活動や異年齢交流の機会の確保、また、既存の幼稚園の活用による待機児童の解消、育児不安の大きい保護者やその家庭への支援を含む地域子育て支援の充実」など、近年の教育・保育に対する需要の多様化に地域の実情に応じて柔軟に対応することを目的として創設されました。東村山むさしの幼稚園は、平成二十二年四月、長時間保育機能と子育て支援機能に充実した施設として、市内で唯一、認定こども園(幼稚園型)の認定を頂きました。そして、幼児教育環境を支える保育部門である「預かり保育」の拡大という理念を持って、平成二十五年四月、隣接地に「東村山むさしの保育園」を併設し、認可幼稚園と認可保育園にて構成される「幼保連携型」の総合施設として地域の教育と子育てを支えていきます。

### 幼稚園と保育園 何か違う?

幼稚園の根拠法令は学校教育法であり、「幼児の心身の発達を助長すること」を目的としています。これに対し、保育園(所)の根拠法令は児童福祉法であり、「日々保護者の委託を受けて、保育に欠けるその乳児又は幼児を保育すること」を目的としています。

つまり、幼稚園は未就学児の教育を行う場、保育園は保護者に代わって乳児又は幼児を保育する場、ということになります。

**筆者紹介**  
**東村山 むさしの 認定こども園 園長・野澤貴春**

1971年1月、市内廻田町に生まれる。  
1983年、東村山市立回田小学校卒業。  
1986年、同、東村山第四中学校卒業。  
1989年、明星高校卒業。  
1993年、中央大学・法学部卒業。

法律・政治を学ぶ傍らスポーツ活動にも力を入れ、卒業後は実業団にて選手活動。  
国民体育大会入賞回数、ジュニア世界選手権日本代表、東京都スポーツ優秀選手賞等、多々受賞。中学校教諭一種免許、高等学校教諭一種免許、大型自動車運転免許、Microsoft Office Specialist、等取得。

1997年、園の学美化に合わせ、学校法人野澤学園勤務。  
2008年、同園、事務長を経て園長へ就任。

# 東村山むさしの認定こども園

◀ 平成 25 年度より、幼保連携型認定こども園へ移行 ▶

認可幼稚園と認可保育園が、園庭や雑木林をはさみ向かい合って併設。  
教育・保育を混同することなく連携。  
互いの理念を守りつつ、様々な環境やノウハウををらしあうことにより、  
各々の役割および質の向上を目指します。



**【教育部】東村山むさしの幼稚園**  
3歳~5歳・定員 320 名

**【保育部】東村山むさしの保育園**  
1歳~5歳・定員 100 名




学校法人野澤学園（教育部・保育部）東村山むさしの総合こども園  
〒189-0025 東京都東村山市連田町 2-14-1 TEL:042-394-4536(代)  
<http://www.3plala.or.jp/musasino/>

## >>> 建設中の「東村山むさしの保育園」の紹介 <<<

就学前教育を求める幼稚園児と、そのご家庭にも、保育を必要とする場面は多くあります。就労や子育て支援を必要としている家庭にも、就学前教育を望んでいる人達がいるのです。

様々な環境の人達が各々に適した子育て・教育環境を求めている現状があります。継承されつつも、異なる制度下において分断されてきた幼保の世界。未だ混沌とした一体化議論の最中ではありますが、様々な観点から見据えつつ理想を求め、純施設整備費6億超、「東村山むさしの」は、このたび保育と教育がともに手を差し伸べあう形での総合施設の構築をスタートさせました。



認定こども園とは、幼稚園や保育所等が教育と保育の両方の機能を提供するとともに、子育て支援事業を行う施設のことです。

認定こども園制度は、「就業形態が多様化する中で、保護者の就労の有無に関わらない施設の利用」、また、「少子化の進行により子どもやきょうだいの数が減少する中で、子どもの健やかな成長にとって大切な集団活動や異年齢交流の機会の確保、また、既存の幼稚園の活用による待機児童の解消工育児不安の大きい保護者やその家庭への支援を含む地域子育て支援の充実」など、以下のような近年の教育・保育に対する需要の多様化に地域の実情に応じて柔軟に対応することを目的として創設されました。



東村山むさしの幼稚園は、平成 23 年 4 月、長時間保育機能と子育て支援機能に充実した施設として幼稚園型の認定こども園としての認定を頂きました。そして、幼児教育環境を支える保育部門である長時間保育（預かり保育）の拡大という理念を持って、平成 25 年 4 月、隣接地に「東村山むさしの保育園」を併設し、認可幼稚園と認可保育園にて構成される、幼保連携型の認定こども園に形式変更することに至りました。



学校法人野澤学園（教育部・保育部）東村山むさしの総合こども園  
〒189-0025 東京都東村山市連田町 2-14-1 TEL:042-394-4536(代)  
<http://www.3plala.or.jp/musasino/>

# 東村山むさしの幼稚園

教育部 > 3歳~5歳・定員 320 名



- のびのびした環境。しっかりした教育。
- 就学に向け多彩な活動や行事などフルカリキュラム。
- 教育時間外の充実した長時間保育環境も充実。
- 入園に向けての、就園・子育て支援事業も多彩。
- 保護者の会やサークル活動など、保護者の集いも多々。
- 多彩な課外教室（サッカー・体育・剣道・新体操・英語・美術・ピアノ、ヤマハ音楽教室など）。

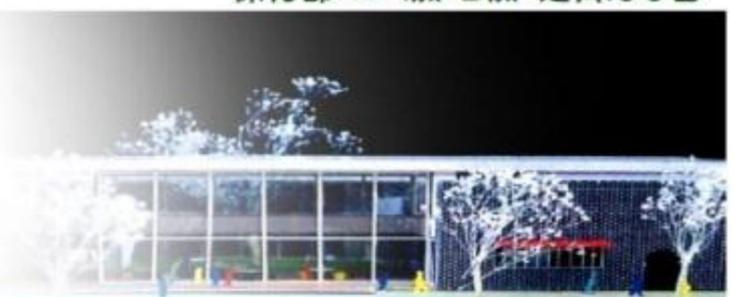
園地 約 8500 m<sup>2</sup> + 農園、職員駐車場（学園全体）  
園舎 幼稚園施設延床面積：約 1,970 m<sup>2</sup>  
（各園舎、体育館など含む）

定員 320 人

学校法人野澤学園（教育部・保育部）東村山むさしの総合こども園  
〒189-0025 東京都東村山市連田町 2-14-1 TEL:042-394-4536(代)  
<http://www.3plala.or.jp/musasino/>

# 東村山むさしの保育園

保育部 > 1歳~5歳・定員 100 名



平成 25 年 4 月開園予定。保育士・看護師、募集中

- 就学前幼児教育カリキュラムを取り入れた保育園。
- 長時間保育に緩急を取り込み、家庭的保育の中に短時間集中型の社会性の高い集団教育・就学前幼児教育を導入。
- 駐車場・園庭など隣接幼稚園の充実した施設・環境の利用。
- 午後は、幼稚園の課外教室等も利用できます。
- 3歳進級時、幼稚園（教育部）への転入もできます。

園地 約 8500 m<sup>2</sup> + 農園、職員駐車場（学園全体）  
園舎 保育園施設延床面積： 1,594.64 m<sup>2</sup>  
（1階床面積：1,059.43 m<sup>2</sup>、2階床面積：535.21 m<sup>2</sup>）

定員 100 人  
1 歳児：15 人、2 歳児：18 人  
3 歳児：20 人、4 歳児：23 人、5 歳児：24 人

学校法人野澤学園（教育部・保育部）東村山むさしの総合こども園  
〒189-0025 東京都東村山市連田町 2-14-1 TEL:042-394-4536(代)  
<http://www.3plala.or.jp/musasino/>